

メキシコ人はどこで衣料品を買うか

星野 妙子

### 古着とDCブランド

数年前にメキシコに住んでいたころ、家の近くを日本のチリ紙交換のよう  
にするのかと思っていたら、チアンギスと呼ばれる路上の定期市の一角に古着屋が店をかまえて  
いるのに出くわした。メキシコではまだ古着の需要があるのだ。輸入が大幅に自由化された最近  
では、国境を越えてアメリカから古着が入ってくるという。隣国でトン当たりいくらで買い、原  
料用のポロ布という名目で輸入されながら、実際にはチアンギスで古着として売られているそう  
だ。

このように古着が売買される一方で、一九八五年のメキシコ大地震の時にはこんなことが起き  
た。救援物資として被災地に大量の古着が集まった。しかしあまり評判が芳しくなく、引き取り  
手のない古着が山のように残り、当局が困惑したというのだ。



観光客相手に民族衣装の人形を売る女性たち  
(メキシコ市サンアンヘルにて)

ある研究によれば、一般に、一人当たりの年間衣料消費量が二キログラムを超えると、ボロ着が見られなくなるそうである。ファッション産業が成立する水準は六キログラムであるという。メキシコについて同様の数字を採したら、一九七九年の国民一人当たりの繊維消費量四・二キログラムという数字があった。八二年以降は経済危機で消費が伸び悩んでいるといわれているので、現在の数字もこれとそれほど変わらないであろう。先の説に従えば、メキシコの衣料消費水準はまだファッション産業が成立するまでには至っていないが、すでにボロ着が姿を消してもいい水準にはなっていることになる。しかし現実はそのようではない。通りやバス・地下鉄の中で、ほころび、穴があき、くたくたになった衣類を着ている人に大勢お目にかかる。しかしその一方で、ショッピング・センターやデパートのショーウィンドーには、内外のデザイナーの名を冠したファッショナブルな商品が所狭しと並んでいる。このような現象をどう理解すればい

いのだろう。

以上の話からひとつ思いあつたのは、メキシコの衣料品の市場は分断され重層化されているのではないかということであつた。

### 市場を分断す

#### る 階層の垣根

市場を分断する垣根のひとつは階層であろう。

最上層の人々はヨーロッパ製、アメリカ製の衣料品を愛好するという。衣料品の輸入は最近まで制限されていたから、主な入手手段は現地購入である。二三年前メキシコで、グアダルーペ・ロアエサ著『お嬢様』という本が評判になつた。メキシコの上流家庭の子女の生活を面白おかしく書いたエッセイ集である。冒頭にメキシコのお嬢様たちの類型化を試みているが、その際の基準のひとつが衣料品の購入先であつた。それによれば、最も格上のお嬢様の衣料品の購入先はヨーロッパ、格が下がるにつれてアメリカ、国内へと変化するそうだと。

格下のお嬢様を含めそれ以下の階層の人々は国産品を愛好せざるを得ない。国内でも階層に応じた購入先が存在する。購入先のおおよその序列を上からいえば、高級ブティック、デパート、一般商店・スーパーマーケット、市場・チアングス、となろうか。もちろん品揃え、品質、価格もこの序列にそつて変化する。要するに、メキシコ社会の格差構造がそのまま衣料品の市場構造に反映しているわけだ。

ちなみに筆者が衣料品を買うときは、主にデパートに行った。以前にお土産物の市場で上着を

買って、はずかしい思いをしたことがある。しゃれた柄（とその時は思った）でなかなか着ごこちもよさそう、しかも破格の安値だったので買って愛用していたが、あとでその柄はメキシコでは雑巾の柄であることを知った。

### もうひとつの垣根

市場を分断するもうひとつの垣根として多様な土着文化の存在をあげることができる。

### Ⅱ 土着文化

メキシコの民族衣装として日本人の頭にすぐ思い浮かぶのはポンチョにソンプレロであろう。こういうイメージが生まれたのは、アメリカの西部劇とトリオ・ロス・パンチヨスの影響に違いないと筆者はにらんでいる。もちろんメキシコ人が皆、そのようないでたちでいるわけではない。ソンプレロもポンチョもメキシコの風土から生まれた多様な民族衣装のひとつにすぎない。

メキシコは民族衣装の宝庫であるが、その存在は主に多様な少数民族の存在によって支えられている。地方、特に先住民人口が集中する南部のオアハカ州やチャパス州に行



民芸品を売る女性（サン・アンヘルにて）

けば、豊かな土着の服飾文化に接することができる。また都会では西欧化された服装が主流であるが、それでもところどころに土着の要素を垣間見ることができる。先の『お嬢様』によれば、「革新的なお嬢様」はカルバン・クラインのパンタロンに民族衣装のウイピール（刺繍が施された貫頭衣）姿を好むそうである。

### 体質改善を迫られる

メキシコの衣料品は高級品から低級品にいたるまでおしなべて品質が悪い。その原因としてよく指摘されるのは、繊維産業に対するこれまでの過剰な保護である。輸入品はシャツアウトされ、生産者は守られた市場の中で

### 繊維産業

生産活動を行うことができ、しかも需要の増加に生産が追いつかず売手市場となったため、品質向上・生産性向上の努力を怠ってきた。そのことが低品質で高価格の製品を生み出す結果となったというのだ。筆者はこのことに加えて、上述のような市場が分断された状況も、競争力の欠如した産業が形成される重要な要因となったのではないかと推測する。

しかし昨今は、生産者が守られた市場の中で安穩としていられる状況ではなくなってきた。経済危機打開の有力な方策として実施された経済開放の波に、繊維産業はもろにさらされているのである。アジア諸国からは安価な量産品が、欧米諸国からは高級品が、さらに隣国からは古着が、続々と国内に入ってきた。消費者にとっては大変喜ばしい事態であるが、しかし生産者にとっては厳しい冬の時代の到来である。